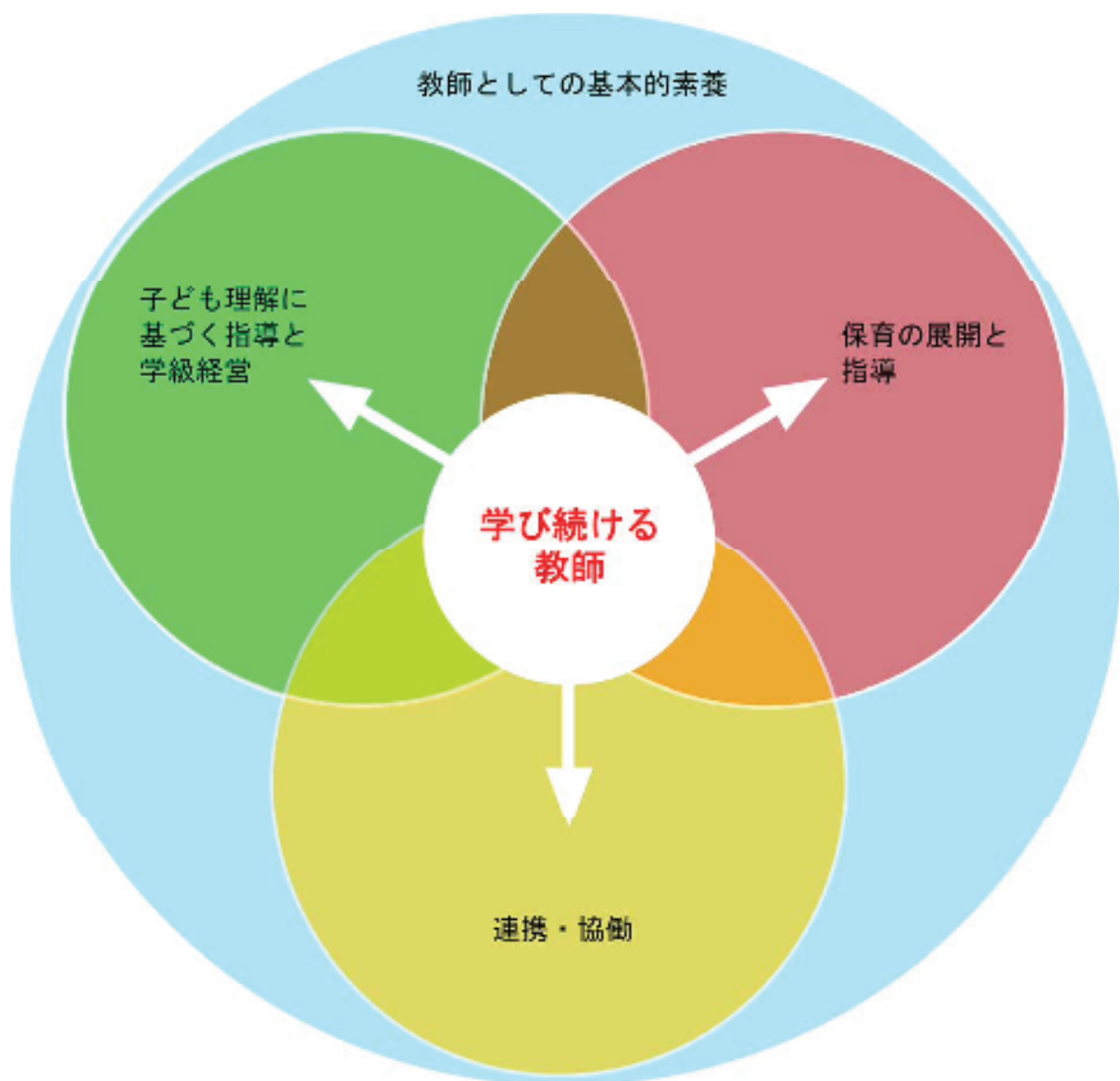


3. 教員養成スタンダード（幼稚園版）

本学の教員養成スタンダード（幼稚園版）は5領域、15の中項目、49項目から構成されており、次のように構造化されています。

小学校教員と同様、初任の幼稚園教員も「教師としての基本的素養」を基盤として、「子ども理解に基づく指導と学級経営」、「保育の展開と指導」、同僚や保護者などとの「連携・協働」という相互に関連し合う3領域の資質能力をバランスよく身につけるとともに、それらを養成段階のみならず入職後も絶えず向上させる必要があります。そのために、自律的に生涯にわたって「学び続ける教師」であり続ける能力を養成段階で身につけることが求められます。



兵庫教育大学 教員養成スタンダード（幼稚園版）の概念図

小学校版と幼稚園版が部分的に異なる場合、幼稚園版の教員養成スタンダードおよび「自己評価のための具体例」では当該個所の文字の色が変わっています。

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
学び続ける 教師	省察的実践	1	常に自らの学びを省察し、課題を見つけて改善することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学びを振り返り、知識や理解の不十分な点に気づくことができる ・自らの教育実践を振り返り、実習ノートやポートフォリオで成果や課題を整理することができる ・大学の授業を通して自己の教師像を絶えず捉え直すことができる など
	研究を通じた専門性向上	2	研究活動を通じて絶えず自らの専門性の向上を図ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や理解を深めるため、授業の予習や復習を積極的に行っている ・自己の研究テーマを持ってゼミに主体的に参加している ・研究に必要な情報・資料を収集し、活用することができる など
	長期的視野に立つ職能成長	3	長期的視野に立って、自らの職能成長を図ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の授業科目等が大学での4年間の学びや将来の教師の仕事にどのように役立つかを意識して自らの成長を図ることができる ・自己の理想的な教師像を具体的に述べるができる ・教員養成スタンダード等を手がかりに、教師の生涯にわたる成長という視点から、自己の現状と課題を述べる ことができる など
教師としての 基本的 素養	社会人としての素養	4	言葉づかい、挨拶、礼儀、マナーなどの社会人としての常識を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況に合った服装や言葉づかいができる ・日頃から社会生活上の基本的なルールを守っている ・明朗かつ積極的に物事に取り組んでいくことができる ・配慮を必要とする人に適切に対応しようとする姿勢を持っている など
		5	集団での活動において、リーダーシップを発揮することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動において自らの役割を見出し、積極的に活動に参加することができる ・集団内の多様な意見に耳を傾け、集団をまとめることができる など
		6	自らのストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のストレスをめぐる問題(「バーンアウト」等)とその要因・対処法について知っている ・ストレスを発散するための自分なりの方法を身につけている ・困難な事態に対しても問題解決に向けて粘り強く取り組むことができる ・自身の健康を考えて日常的に適度な運動を行っている など
		7	日本及び外国の文化・歴史、環境問題、平和問題等についての幅広い知識を持っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本及び外国の文化・歴史に興味を持ち、書物を読んだり、旅行をしたりしている ・環境問題や平和問題に関心を持ち、それらについて調べたり、友人等と話し合ったりしている など

教員養成スタンダード		自己評価のための具体例	
教師としての基本的素養	教師としての素養	8	<p>教師としての使命感を持ち、その役割と職務内容を理解している</p> <p>・教師としての使命感を持って教育実習や学校支援ボランティアに臨んでいる ・教師の服務事項(職務上・身分上の義務)について知っている など</p>
		9	<p>教育に関する社会的・制度的事項を理解し、現代の学校教育の課題を把握することができる</p> <p>・教育基本法と教育三法(「学校教育法」、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」、「教育職員免許法及び教育公務員特例法」)の主な内容を知っている ・近年の中央教育審議会の主な答申等の内容を知っている ・保育に関する調査の最新の情報を知っている など</p>
		10	<p>教育の理念・歴史・思想について理解し、自らの教育観を深めることができる</p> <p>・教育の理念・歴史・思想について調べたり、それらに関する書物を読んだりしている ・教育の理念・歴史・思想に関する知識に基づき、現代の教育課題について自分なりの意見を持っている など</p>
		11	<p>教育課程の意義や編成の方法について基本的事項を理解している</p> <p>・幼稚園教育要領・保育所保育指針及びそれらの解説書の主な内容を知っている ・子どもの実態や地域の特性を生かした保育内容開発の具体例を挙げることができる など</p>
		12	<p>子どもに対して正しくわかりやすい言葉づかいができる</p> <p>・子どもの模範となるような言葉づかいができる ・子どもが理解しやすい言葉づかいができる など</p>
		13	<p>園生活の様々な場面で子どもの興味・関心・意欲を活かす工夫を行うことができる</p> <p>・保育において教材の内容や提示の仕方を工夫することができる ・子どもの興味・関心・意欲を高めるような褒め方ができる ・子どもの主体性を信じて見守ることができる など</p>
		14	<p>人権を尊重しながら子どもにかかわることができる</p> <p>・子どもの人格を傷つけるような言動を行わない ・子どもの多様な考え方や文化を尊重できる ・いかなる場合においても体罰を行わない ・子どものありのままの姿を受容することができる など</p>
		15	<p>子どもの安全管理に関する基礎的知識を有し、指導に活かすことができる</p> <p>・文部科学省や教育委員会の発行する安全管理・指導に関する通知やマニュアルを読んでいる ・屋内外で子どもが安全に活動できるよう事前に予防策を講じることができる など</p>
		16	<p>素直に他の教師に相談するとともに、他の教師の意見に対して謙虚に耳を傾けることができる</p> <p>・積極的に実習指導教員や他の実習生に相談・質問することができる ・実習指導教員等の指導や助言を素直に受け入れることができる など</p>

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
教師としての基本的素養	教師としての素養	17	<p>主な情報通信機器の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトなど、基本的なアプリケーションソフトを活用することができる ・インターネットやデジタル教材を活用し教材研究を行うことができる ・著作権、肖像権、ウイルス対策など、基本的な情報モラルに関する知識と対策方法を知っているなど
		18	<p>自らが園組織の一員であることを理解し、組織内の自らの役割を自覚している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な園務分掌の内容について知っている ・各園の教育目標や重点課題の重要性とその機能を知っているなど
子ども理解に基づく指導と学級経営	子ども理解	19	<p>子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に関するピアジェやヴィゴツキー等の代表的な理論を知っている ・発達の個人差に配慮し、子どもを理解することができる ・子どもの身体の発育やけが・病気などへの対応について理解しているなど
		20	<p>子ども一人ひとりの特性や心身の状況を生活環境や生育歴を含めて多面的にとらえることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びの姿から、一人ひとりの興味や関心をとらえることができる ・子どもの様々な行動から、心情や意欲等の内面を理解することができるなど
		21	<p>子ども同士の関係や仲間集団を把握し、指導に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の子どもの人とのかかわり方や集団の中での仲間との関係を捉えることができる ・子ども一人ひとりに配慮しながら、集団としてまとまりのある指導ができるなど
		22	<p>公平かつ受容的・共感的な態度をもって子どもとかわることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに分け隔てなく公平に接することができる ・子どもの言葉をじっくりと聴き、共感的に理解することができるなど
	23	<p>特別支援教育に関する基礎的知識を有し、子どもの指導や支援に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の意義や理念について知っている ・身体障害、知的障害や発達障害(LD、ADHD、自閉症スペクトラム)などの特性について知っている ・障害のある子どもに対する基本的な支援の方法を知っている ・子どもの生活場面に即して、障害理解のための指導を行うことができるなど 	
	学級経営	24	<p>学級担任の役割と職務内容に関する基礎的知識を持っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで学級目標を立てることの意義について知っている ・学級担任の一日の仕事の流れを把握しているなど
26		<p>子どもとの信頼関係の重要性を認識し、その構築に努めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育において子どもからの信頼を得ることの意義を知っている ・子どもの名前を早く覚えたり、子どもに寄り添ってかかわるなど、子どもとの信頼関係を築くための具体的な取り組みを行っているなど 	

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
子ども理解に基づく指導と学級経営	学級経営	27	<p>保育室の掲示や座席配置を工夫するなど、子どもが生活しやすいよう環境を整えることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育室内のそれぞれの掲示物にどのような教育的意図があるかを知っている ・子どもの生活や活動に応じて座席配置を工夫することができる など
		28	<p>子どもの基本的な生活習慣の重要性を理解し、指導を行うことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、衣服の着脱、持ち物の整理や片付けについて指導することができる ・時間を守り規則正しい生活を送ることについて指導することができる など
	子どもの指導	29	<p>園の規則や子どもが自分たちで作った決まりを守ることの大切さについて指導することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いなどを通して、子どもが自分たちで決まりを作ったり、守ったりできるよう指導することができる ・集団活動における約束や決まりを守ることの重要性を子どもに説明できる など
		30	<p>子どもの気になる行動の背景を多面的にとらえ、対応方法を考えることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気になる行動の要因を様々な観点から考えることができる ・乱暴な行為など仲間同士におこるトラブルへの具体的な対応方法を知っている など
		31	<p>教育相談の意義、理論や技法に関する基礎的知識を持っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防的な教育相談や問題解決的な教育相談の特徴を説明できる ・傾聴、受容、明確化等の教育相談で用いられる基本的な姿勢を身につけている など
		33	<p>遊びの意義を含め、幼稚園教育要領の主な内容を理解している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各領域におけるねらいと内容を知っている ・遊びを通しての総合的な指導など幼稚園教育の基本について理解している など
保育の展開と指導	内容理解	34	<p>保育内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容について幼稚園教育要領に沿って指導できるだけの知識を有している ・保育内容に活用できる得意な分野を持っている ・絵本、歌、製作、運動遊び等に関する面白さを知っている ・自然や自然物とかかわり、保育に活用することができる ・子どもの食育に関する知識を持っている など
		35	<p>教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領において求められる保育内容を意識し、教材の内容を捉えることができる ・保育のねらいを踏まえ、それに適した教材を選択することができる など
		36	<p>子どもの実態や地域の特色に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を生かした教材開発の具体例を挙げることができる ・子どもの実態に合わせて既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができる など

教員養成スタンダード

自己評価のための具体例

教員養成スタンダード		自己評価のための具体例	
保育の展開と指導	保育方法	51	<p>環境を通した指導方法について理解し、活用することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境を通して行う教育における教師の役割について理解している ・子どもの活動と保育のねらいにふさわしい環境を考えることができる など
		37	<p>主な保育方法の長所と短所を理解したうえで、保育の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級全体での指導・グループでの指導・個別の指導等の長所と短所を知り、適切に選択することができる ・チーム保育等の多様な保育形態について知っている など
		38	<p>保育内容に即した指導方法について理解し、活用することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を十分に活用した保育の具体例を挙げることができる ・視聴覚機器を用いて教材を提示することができる ・ピアノ、手遊び、パネルシアター、運動遊び等の技術を持っている など
		39	<p>言葉の掛け方など保育を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体的な活動を促すための言葉の掛け方を工夫することができる ・子どもの注意を引く方法を知っている など
		40	<p>子どもの興味関心などを踏まえて、個に応じた指導を試みることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの良さを見つけ、その良さを伸ばすような指導をすることができる ・子ども一人ひとりの興味関心に応じたかかわりをするることができる ・子どもの状況の変化や多様な要求に対して、一人ひとりに丁寧なかかわりができる ・子どもが十分な満足感や達成感を感じられるようにかかわることができる など
		41	<p>子どもの多様な思考を生かしながら、子どもの協同的な経験や学びを促すことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの多様な反応を想定して、協同的な経験や学びを促す指導案を作成することができる ・保育において話し合い活動を効果的に取り入れることができる ・共通の目的を持って子ども同士が工夫し協力し合うような遊びの指導ができる など
		42	<p>子どもの状況や発言に配慮し、柔軟な保育の展開を試みることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの疑問やつまづきを活かして保育を展開することができる ・子どもの姿や発想を大切に、臨機応変に計画を修正することができる など

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
保育の展開と指導	指導計画	43	<p>長期の指導計画の内容を理解し、短期の指導計画に反映させることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化や行事の内容を考慮して、指導計画を立てることができる ・教育課程や長期、短期の指導計画の関連性について理解している など
		44	<p>子どもの実態を踏まえ、指導案を作成することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらい、内容、環境構成、保育者の援助等、整合性のとれた1日の指導案を作成することができる ・子どもの実態と興味や関心を捉え、子どもの活動を予測した指導案を作成することができる など
	保育研究	45	<p>保育研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に自らの保育を振り返り、子どもの実態を踏まえ、さらなる改善につなげることができる ・保育後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、保育改善に活かすことができる など
	保育評価	46	<p>子どもの育ちに対する主な評価の方法を理解し、指導に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察や記録の方法について理解している ・保育のねらいに即して、子どもの発達の理解と指導の改善の両面から保育の反省・評価を行うことができる など
連携・協働	他の教師との連携・協働	47	<p>子どもに関わる情報を他の教師と共有する姿勢を持っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間で子どもの情報を共有すること(報告・連絡・相談)の必要性を説明できる ・クラスの子どもの実態や発達などについて実習指導教員と話している など
		48	<p>様々な場面で他の教師と協働する姿勢を持っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育場面において積極的に実習指導教員の補助ができる ・実習校や各活動学校園の教師と協力して学級活動や学校行事に取り組むことができる など
	保護者・地域等との連携・協働	49	<p>園と保護者・地域・他の専門家・他校種との連携の重要性や役割分担について理解している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域との連携が必要な場面の具体例を知っている ・特別支援教育コーディネーターや児童相談所の専門家との連携が必要な場面の具体例を知っている ・幼稚園と保育所や小学校との連携に関する知識を持っている など
		50	<p>保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応する姿勢を持っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園に対する保護者や地域の要望の背後にはどのような期待があるのか考えることの重要性を知っている ・保護者との会話の重要性や保護者と積極的にかかわることの意義を知っている ・園と保護者・地域の立場や視点の違いを尊重することの必要性を説明できる ・地域の行事に関心を持ち、地域の人々とかかわる機会を持っている など